

リスクアセスメントの結果にはいろいろありますが、次のように分類して整理しておくことで再利用しやすいのでお勧めします。

- |   |  |
|---|--|
| ① | リスクアセスメントを実施した原票（元用紙）                          |
| ② | リスクアセスメントの実施一覧<br>（危険性又は有害性別、作業別、職場別などに整理したもの） |
| ③ | リスク管理台帳<br>（優先度の高いリスクについて抽出し、整理したもの）           |
| ④ | リスク改善事例<br>（③の台帳に掲載し、改善を実施した結果を記録したもの）         |

→ 第3章 3, 7 参照

## （2）リスクアセスメントの見直し

実施したリスクアセスメントが適切であったか、さらなる改善が必要かどうかを検討する必要があります。見直しの内容としては、効率的でやりやすい実施手順への見直し、見積り・優先度の設定の基準の目安や判定の基準の見直し、措置実施の優先順位の原則の引き上げなどがあります。

## 5 リスクアセスメント導入による効果

- (1) 作業現場のリスクが明確になります  
作業現場の潜在的な危険性又は有害性が明らかになり、危険の芽（リスク）を事前に摘むことができます。
- (2) リスクに対する認識を共有できます  
リスクアセスメントは現場の作業者の参加を得て、管理監督者とともに進めるので、作業現場全体の安全衛生上のリスクに対する共通の認識を持つことができるようになります。
- (3) 安全対策の合理的な優先順位が決定できます  
リスクアセスメントの結果を踏まえ、事業者はすべてのリスクを低減させる必要がありますが、リスクの見積り結果等によりその優先順位を決めることができます。
- (4) 残留リスクに対して「守るべき決めごと」の理由が明確になります  
技術的、時間的、経済的にすぐに適切なリスク低減措置ができない場合、暫定的な管理的措置を講じた上で、対応を作業者の注意に委ねることになります。この場合、リスクアセスメントに作業者が参加していると、なぜ、注意して作業しなければならないかの理由が理解されているので、守るべき決めごとが守られるようになります。
- (5) 従業員全員が参加することにより「危険」に対する感受性が高まります  
リスクアセスメントを作業現場全体で行うため、他の作業者が感じた危険についても情報が得られ、業務経験が浅い作業者も作業現場に潜在化している危険性又は有害性を感じるできるようになります。
- (6) 費用対効果の観点から有効な対策が実施できます  
リスクアセスメントにおいて明らかになったリスクやその低減措置ごとに緊急性と人材や資金など、必要な経営資源が具体的に検討され、費用対効果の観点から合理的な対策を実施することができます。